

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400561		
法人名	有限会社 まほろば大和		
事業所名	グループホーム 百楽殿		
所在地	和歌山県 西牟婁郡 白浜町 1313番地		
自己評価作成日	平成24年 8月3日	評価結果市町村受理日	平成24年 9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3072400561&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年 8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・垣谷温泉掛け流しの天然温泉を利用し、機能訓練を行っています。浴槽もリニューアルし、檜の香りを楽しみながら、信楽焼きの浴槽でゆったりと温泉入浴して頂きます。
 ・近隣の喫茶店へ行き、コーヒーを飲んだり、モーニングを食べたりして地域の方々とのふれあいの場を持っています。
 ・1/WIには必ずスーパーへ買い物に行き、献立等を利用者様に考えてもらいながら、材料の購入を行っています。洋服や布団、ジュータン等も自分の好みで購入できるよう支援しています。
 ・体験入居を行い、利用者様に抵抗や不安無く入居して頂ける様配慮しています。
 ・地域住民の方々のご好意で、自宅菜園の新鮮な野菜や、取れたての御魚等の差し入れをして頂けるので、その方々と一緒に調理を行い、利用者様方と食卓を囲み、大家族のような団欒の場が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小高い丘の上であり、リビングに面した中庭の先に広がる景観を見渡せる。自然の風がよく通り、玄関やそのほかの出入り口も鍵を掛けず自由で開放的な環境である。天然温泉があり毎日温泉入浴を楽しむ入居者もいる。自発的にトイレを掃除する入居者の姿がみられるなど、入居者が主体的に行動できるよう取り組まれており、入居者が自由に近隣のスーパーへ買い物に出かけることもできる。また、食の楽しみを重視し、新鮮な材料で趣向を凝らした工夫で、皆がおいしく食事できるよう取り組んでいる。職員が笑顔でないと入居者の笑顔は見られないという方針のもと、事業所の全員を大きな家族と捉えたケアを心がけ、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を玄関に飾り、見やすく表示している。毎月の勤務表にも運営理念を表示し、理念の共有を図っています。	事業所が大切にしている「地域社会の中」「家庭的な環境」「自立する為の支援」を盛り込んだ理念を作り、日々職員間で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月恒例になった御茶会に、近隣の方々や利用者家族様も参加してくれています。近隣のスーパーへの買い物も日常化していますし、利用者様が自分の好きなものを選んで購入し、スーパーの店員さんとも馴染みの関係が築けています。	日常的に近くのスーパーに出かけ、地域の人たちや店員との交流がある。定期的に茶会を開き、運営推進会議のメンバーを通して地域住民に声をかけふれあう機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートの講習会を開催し、近隣の方々に参加を呼びかけています。気軽に立ち寄ってもらえるホーム作りを心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族様、利用者様、元民生委員をされていた方、地域住民の方々に参加して頂き、気付いた事や感想等率直な意見交換が行えています。開催日を検討し、より多くの方々に参加頂ける様務めています。	気軽な雰囲気集まり、2か月に1~2回開催している。本人の参加もみられ、元入居者の家族も参加して、現在取り組んでいる内容などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険室、地域包括、町の社会福祉協議会の方々と相談を重ね、日々のサービス向上に努めています。介護保険課の方や包括の方々も、時々ホームを訪れて下さり、アドバイスを頂いています。	町の担当課へ出向いた際に事業所の取り組みを伝えている。担当者の訪問もあり、より良い運営に向けて協力を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の意義を職員全員が把握し、利用者様には自由で束縛の無い環境で、のびのび暮らして頂ける事を心がけています。定期的に研修を行い、職員全員が身体拘束をしないケアの意義を熟知出来るよう取り組んでいます。	身体拘束排除を目指し、職員の見守りと地域の協力の連携プレーで鍵を掛けない抑圧感のない暮らしを提供している。日々の声かけにも言葉の拘束にならないか気をつけている。	現在拘束をしていないという現状に甘えず、さらにきめ細かく、身体拘束がもたらす弊害や、身体拘束をしないケアの重要性について話し合い、職員の意識に徹底できることが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に研修を行っています。管理者も介護業務を通じ、そのような事実は無いか、日々の確認を行なっています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、自社研修を行い、介護保険法、制度について学ぶ機会をもうけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約書、重要事項説明書を朗読して説明し、不明な点や疑問点について各項目ごとに確認を行ない説明し、十分理解して頂ける様務めています。また、改正等で変更になった場合は、推進会議等で説明し、各利用者様、御家族様にその都度説明を行い、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情担当者を決め、玄関に掲示し、いつでも話し合いの場を持てるよう体制を整えています。投書箱も設置しています。また、面会時に家族様とも親しく御話が出来た関係が築けていますので、日頃の意見やホームでのイベント等に意見を頂いたり、ボランティアで参加して頂いたりしています。	家族とのコミュニケーションを重視し、訪問時にはなんでも話し合えるよう心がけ、協力も得られている。	家族の立場からは直接言いにくい内容があることも想定して、更なる向上を目指して意見を集めるために、アンケートを行う等の工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見や提案を快く聞いてくれる環境を作ってくれています。管理者は日々職員の意見に耳を傾け、本音で話が出る関係を構築している。	法人代表者と職員が話し合う機会は多く、職員からの意見や提案も取り入れた運営がなされている。職員が生きいきと働きやすい職場となるよう、代表者は職員の家庭の事情にも配慮して、希望や悩みをよく聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の実力や能力に応じた給料設定を行っている。外部研修等の参加費用も会社持ちで、職員が参加したい研修に費用提供を惜しまず行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じた研修が受けられるよう、年間計画を立てています。また、職員が参加したい研修にも参加費用を提供し、配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などに参加し、情報交換を行っています。奈良の事業所や、去年立ち上げた一般社団法人紀国との交流も随時行っています。また、同業者の方々の見学や訪問にも随時対応し、御互いの意見交換を行っています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居を行い、入居前から信頼関係を築けるよう努力しています。本人の不安な気持ちや、心配事に寄り添い、安心して過ごせる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の苦労や、困っている事をゆっくり聞いて、要望に応えられるよう努力し、信頼関係の構築に努めています。要望等には出来る限り柔軟に対応できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の要望を最優先で行っています。要望があれば、夫婦や親子で入居できる対応や、受診介助、外出時の付き添い等の対応も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活で、利用者様と共に出来る事を増やしていけるよう心がけています。個々に役割を持ってもらい、毎日行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で、日々の暮らしの出来事や、利用者様の様子を伝え、情報を共有しています。面会時等はご家族でゆっくり過ごせるよう、玄関ホールや食堂を提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が気軽に遊びに来れるよう配慮しています。必要時には送迎も行っています。	地域社会と自然な形で繋がりが持てる支援に努めており、近隣の人の訪問も度々あり、野菜や魚の差し入れを受けるなど、馴染みの関係が構築できている。友人や知人の訪問を支援して職員が送迎を行うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や力、個性を生かせる様配慮し、大家族のような関係作りを目指しています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様とも日常的に交流を持っています。ホームのイベントや行事、草刈や野菜作り等にも積極的に参加してくれ、交流を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様の意向を優先し、計画作成に取り組んでいます。また、利用者様にはのびのびと自由に過ごせるよう配慮し、その都度計画作成に反映させています。	日々のかかわりの中で聞いたことを入居者の言葉で記録し、入居者の視点に立った思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から生活歴を聞いたり、担当ケアマネージャー様からの情報を頂き、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の心身の状況や、行動パターンの把握に努め、個々の生活リズムを大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議や毎月のモニタリングで本人やご家族、主治医等と相談しながら計画作成に務めています。また、毎月のカンファレンスには職員全員が参加し、各利用者様の状況を話し合い、介護計画を作成しています。	家族の希望も踏まえ、日頃の関わりの中で気付いた事を会議で話し合い、介護計画に反映させている。モニタリングは1ヶ月毎に行われ、記録は項目別に分類してファイリングされている。	分類された記録からは、アセスメント、カンファレンス、モニタリングと、計画内容の関係が見えにくい。より分かりやすく活用できる計画となることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録に本人の会話や行動を記載し、モニタリングや検討会議やカンファレンスで情報を共有し、より良い計画作りに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供医療機関の往診や、必要時には訪問看護も行ってもらっています。また、自宅での介護が困難になった場合や、退院後の生活が困難な方、一人暮らしが不安な方に対し、託老所での支援も行っています。災害時や台風の避難場所として、宿泊施設を提供しています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や、警察官、議員さんに訪問をお願いしており、イベント時にはボランティアの方々にもたくさん参加して頂き、御協力いただいています。野菜作りやお菓子作り、手芸、スーパーへの買い物等で地域の方々と交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関で、利用者様に応じた医療が受けられるよう支援しています。24時間対応してくれる開業医さんがあり、2週間毎に往診も行ってくれています。	定期往診を受けることができる協力医療機関を、かかりつけ医としている。他の医療機関を受診する場合は家族で行うが、職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護職員が行っています。定期的な受診、往診を行い、入居者様の健康状態の相談を行っています。また、看護職員が2名に増えたので、日頃の健康状態の相談や、緊急時、急変時の対応も交代制で行えるよう配慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会回数を多く取り、ストレスの軽減を図ったり、主治医や担当看護師さん、看護師長さんと連絡を密にし、早期退院の支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医やご家族様、提携医療機関と相談しながら方針を決めています。状態に応じて家族様と話し合い、ホームでの終末期を希望される方には主治医と相談しながら、出来る限り安らかで穏やかな終末を迎えられるよう支援しています。	医師・入居者・家族の意向・事業所の体制が整えば受け入れる方針で、最近、2人続いて看取りを経験した。夜間の臨終には勤務以外の職員も駆けつけ、入居者の最後を見守った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に定期的に勉強会を行っています。外部での研修にも積極的に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害時には各機関への通報により協力して頂ける様お願いしています。また、防災訓練を年2回行い、避難誘導の訓練を行っています。近隣の方々にお話し、協力者の連絡先を事務所に保管しています。	避難訓練を年2回、1回は消防署の協力で行っている。夜間の出火も想定し、入居者も一緒に実践的な取り組みをしている。	

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの日々のかかわりの中で、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に務めています。	入居者のペースを尊重し、本人の誇りを傷付けないよう配慮し、危険が伴う動作に対しても、すぐに手出ししないで、安全性に配慮した職員の見守りの中でリスクを回避する対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、自分で決められる事を多く取り入れ、自分で決められる支援を行っています。(更衣時の服選び、朝食のパン、御粥、買い物時の支援等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、自由にのびのびと過ごせるよう心がけ、本人の希望を引き出せるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや毛染め等、本人の好みに応じて行ってもらっています。美容室へ行けない方には、出張理容をしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の嗜好を聞いてメニュー作りを行っています。後片付けや配膳、下膳が出来る利用者様にはお願いし、調理の下ごしらえも、無理の無い範囲で手伝ってもらっています。(ジャガイモ人参等の皮むき、煮物類の味見)	朝、入居者とその日のメニューを考えて決めている。調理の下ごしらえから配膳・下膳など入居者が自然に行動を起こす場面作りをしている。食事制限のある人も、皆と一緒に食事を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を考える時に出来るだけ偏らない食事づくりに心がけています。また栄養のバランスも考慮し、質、量を決めています。水分補給には十分注意し、こまめに声かけを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアの声かけを行い、出来ない方には職員が介助しています。義歯の方は消毒を行っています。		

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をこまめに行っています。	排泄パターンを把握して見守り、入居者の様子から察知した適切な時に声かけ、誘導を行っている。トイレはホームの棟には1カ所のみで、待つことが難しい場合は自室にポータブルトイレを置いている。	トイレへ行って排泄できることは、入居者の自信や生きる力にも繋がる。できるだけ皆がトイレで排泄できる方策の検討が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れ、十分な水分補給に務め、日常的に健康体操や、近隣への散歩を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分のペースで、のんびりゆったり入浴できるよう支援しています。温泉入浴、個別入浴を利用し、希望されれば毎日入浴できます。	状況に合わせてユニットバスを使用する場合もあるが、信楽焼の浴槽がある天然温泉で入浴することがほとんどで、入居者が自由に入浴を楽しむことができる支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人で不安な方や、寂しいと言う方には仲の良い利用者様と一緒に過ごしてもらったり、眠れない時には食堂で過ごしてもらったり、お茶やお菓子等でリラックスしてもらえよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容をいつでも閲覧できるよう内服管理ファイルを作っています。変更時には申し送りを行い、誤薬の無いよう務め、変更後の様子観察等、医師、看護師の指導の下、常に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割を決め、無理強いしないよう注意しながら、職員と共に楽しく行えるよう支援しています。気分転換に、回転寿司を食べに行ったり、喫茶店へコーヒーを飲みに行ったり、買い物等も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は日常的に行っています。近隣の方々の協力を得て、利用者様同士での買い物も行え、好きなものを自分で購入してもらっています。	散歩や日常の買い物は一人ひとりのその日の希望にそって出かけられるよう個別の支援に努めている。普段は行けないような外食にも出かけられるように支援している。	

【事業所名】グループホーム百楽殿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様に同意を得て、小額ですが自分で御小遣いの管理を行ってもらっています。買い物時の支払も自分で行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。定期的にご家族様と話が出来よう電話の取次ぎも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生け花や、ガーデニングで季節感を味わってもらっています。季節に応じた換気を行い、自然の風やにおいにふれてもらえる様配慮しています。	リビングに面した広い中庭の先には高台からの景色が広がり開放的である。畳のスペースもあり、調度品等も使い慣れた家庭的な雰囲気である。トイレは1カ所で、広くて車椅子にも対応できるが、段差があり照明も暗く、生活感に欠ける雰囲気である。	かつては保養所施設であったことから、厨房やトイレなど、構造的に家庭的でないところもみられるが、入居者が落ち着いて快適に生活できるよう、さらなる検討を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも一人ひとり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の使いやすいように工夫し、居心地がよく、落ち着いて生活できるよう支援しています。	各部屋の作りが異なり、自分の部屋が分かりやすく、どの部屋も個々に違った雰囲気である。各入居者の気に入った設えで居心地よく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能を最大限に発揮出来るよう、時間がかかっても、職員が手を出さず、自分で出来た時の喜びを利用者様と共有し、自立した生活を送り続けられるよう支援しています。		